

**文庫あれこれ**◆伊豆高原に降りたとき、秋を感じました。肌をかすめる空気の爽やかなこと。心持ち薄い青空。今日は気持ちのよい日でした。今年もサルビアの花が文庫の花壇いっぱい咲いています。(9月11日)◆今年の夏は滅法忙しく心にゆとりがもてずとげとげし、またそんなときは、他人の一言一言が悪く響くものですね。秋が来てやさしくなりたい。◆わたくし事で恐縮ですが、長男(男はひとり)が42才にして結婚しまして(とても可愛い気配りのできるお嫁さんです)、先月末、双方の家族だけでささやかなお披露目をし任地へ2人で飛んで行きました。◆そのときに、彼がうたったのが冒頭の「切手のないおくりもの」。息子ながらよい歌を選択したと思いました。3番のフレーズ、年老いたあなたへ…心優しく育ててくれたお礼がわりにこの歌を、と歌いましたら、あちらのおかあさまがそっと目にハンカチをあてておられました。我が家では嫁さんをもらったわけですが、あちらは手塩にかけた愛娘を見ず知らずの人達にゆだねるのですから、計り知れぬ淋しさがありだろーと思いました。◆娘3人嫁に出しましたが、未だにしょっちゅう実家を訪ねる娘たちは連れ合いの親御さんのところに孫達を連れて行っているだろうかと、これまた心配になりました。◆さて、昨日、東京で珍しいことがありました。家から渋谷経由で山手線の改札へ向かうと階段を昇ったとき、だれを見たと思います。我目をうたがいました。なぜかキョロキョロしている文庫の助っ人Nさんだったのです。墓参にみえたとか。大室の人に東京であって何だか不思議でした。◆今月は新刊をチェックする暇ありませんでした。10月には入れますので、ご容赦を。◆パソコン貸出もスタッフ一団だいぶ慣れてきましたが、時々PCが機嫌を損ねるのでこれまでご容赦を。◆文庫の蔵書チェックはく地域マップ伊豆高原><http://park17.wakwak.com/~izukogen/>で、できます。◆10月は秋の夜長のおはなし会です。お出かけください。しみじみとしたひとときをいかがですか。◆文庫の日今日のははっきりしないお天気になってきました。今晚伊東では文庫のYちゃん達が出る「大田楽」があるのですが。(西村)

“ “これからの催し物のお知らせ” ”

★秋の夜長のおはなし会★

日時 10月18日(日) 夕方5:30~7:00 予定

会場 沙羅の樹文庫

対象 小学生以上から大人まで

参加費 無料

語り手 ゲスト+<おはなし・沙羅>メンバー

文庫から生まれた<おはなし・沙羅>。今回はグリムの昔話に挑戦。この機会にぜひ、たくさんのグリム話を知ってください。

また、今回は、在住の吉川さんの朗読で青木玉(幸田文娘)の懐かしくも美しい日本の風情いっぱいの短篇をお聴きいただきます。語りと一味ちがう、耳からの文学をご一緒しましょう。

★クリスマスお楽しみ会・おはなし会★

日時 12月20日(日) 午前10:30~12:00

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆10月は通常。17日(土)、18日(日)

◆11月は変則です。11月7日(土)、8日(日)

◆12月は通常。19日(土)、20日(日)

◆文庫の時間：土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時

◆毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。午前10:30~11:00

◆文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日の土曜日の2日です(従って第3土曜日ではなく第2土曜日ということもあります)。

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》  
みんなで勉強会(おはなしの会・沙羅)

★10月17日(土)夕刻はリハーサルです。

連絡先：沙羅の樹文庫 電話 0557-51-3737

# 沙羅の樹文庫便り

No.37

(2009年9月号)



里の秋 やさしい気持ちになる秋

ご無沙汰しているあの方にお便りでもしてみましようか

私からあなたへ この歌を届けよう

広い世界にたった一人の 私の好きなあなたへ

歳老いたあなたへ この歌を届けよう

心優しく育ててくれた 御礼がわりにこの歌を

知りあえたあなたに この歌を届けよう

今後よろしくお願ひします 名刺がわりにこの歌を

.....

切手のないおくりもの(財津和夫作詞)

## 大人の本の紹介

### 最近お借りした本についての読後感

- ① 瀬戸内寂聴 著・横尾 忠則 画 (日本経済新聞出版社) 『奇縁まんだら 続』

菊田一夫・柴田錬三郎・円地文子・高見順・森茉莉・島尾敏雄など、それぞれ一癖も二癖もある有名文人・アーティスト 28 人との交わりを暖かい筆致で書いてある。緑陰の読み物として最高。寂聴さんは人間の嫌なところも受容できる包容力の有る人で、だからこれが書けた。これは例えば自分が絶対という円地文子や大庭みな子にはまず書けなかったろうと断言できる。

ところで横尾忠則の描いた各登場人物の肖像画が凄い。おそらく写真を見て描いたのだろうが、個性の強いモデルたちの芯に潜む核心にあたるものをぐいと掴んで描いており見事だ。寂聴さんの文章よりこの肖像画が主役になるくらいの迫力がある。横尾忠則という男はやはり只者ではないね。

- ② 村田喜代子 著(朝日新聞出版) 『あなたとともに逝きましょう』

前に荻野アンナの「蟹と彼と私」について書いたことがあります。状況はちょっと似ている。アンナの場合、彼氏は食道癌だったが、これは主人公の大切な旦那に弓部大動脈瘤ができて、その手術は、胸骨を切り開き、人工心肺を動かし、手術は心臓を停める 8 時間もかかる大手術で、死亡率は 20 人に一人、助かっても重大な後遺症の危険もある、というもの。なんとか手術しないで、東洋医学や温泉療法で直らないかと夫婦が苦心惨憺しているんな回り道を試してみるが、結局は手術、というところも同じ。この小説の場合は、旦那が手術大成功、無事生還するのだけれど、病院でリハビリに入った旦那に自分でも思いもしなかったことを言うてしまう。「あたしはもうこれないわよ。なぜだかわかる？あたし死ぬ

からよ。」と。この一言がこの小説のピリ辛ポイントなんです。これは利いたよ、参ったね。旨い。村田喜代子は実に文章の上手な人だ。「名文を書かない文章講座」なんて本を書いている人だもんね。

- ③ 桐野夏生 著(集英社) 『IN』

何だなんだ！ この小説は期待して読んだのに、ちっとも面白くないんですね。なぜかって、良い小説は読者を何かの意味で主人公に同感、同情、共感させるものなのに、何処まで読み進めても主人公にシンパシーが起こってこないのは何故なのだろうか？私の読み方がおかしいのか、それとも夏生さんの失敗作なのか。まあ沢山書いていればこんなこともあるんでしょうが。

(Mr.森林浴)

## 子どもの本の紹介(絵本)

『てん』 ピーター・レイノルズ作 谷川俊太郎訳  
あすなる書房 2004.1

絵を描いたりものを作ったり図工の得意な子がいる反面、具象的表現の苦手な子もいる(この私がそうだった)。この主人公ワシテはおえかきの時間が終わっても紙はまっしろ、何も描けていない。そんな自分に腹を立てている。そのとき先生が、「なにかしるしをつけてみて」、とアドヴァイス。そしてワシテがマーカーを強く押しつけてできた点に「サインして」と。次の週、額縁に入って飾られた自分の点を見て、ワシテは絵の工具箱を開け描きはじめた、いろんな点を……。傷ついた自尊心を癒し高めてくれる絵本。

こんな先生いたら嬉しいなあ。子どもだけでなく、おとなの人も読んでみてください。

※以前通っていた中学の障害児クラスでこの絵本を読んであげた次の月、帰り際、2年の男子が擦り寄ってきて言った。「ぼく、てん、買ってもらった、ワシテは僕のお守りなの」

『綱渡りの男』モーディカイ・ガースティン作 川本三郎  
訳 小峰書店 2005.8

綱渡りの得意な大道芸人がいた。彼の名はフィリップ。かつて故郷パリのノートルダム寺院の2つの塔の間で綱渡りをして下にいる人を驚かせた彼は、今度はニューヨークの街で一番高い2つのタワーの間にロープを張ってそこで綱渡りをしたい、と思った。そして実行した。……ふたつのタワーは、今はもうない。が、それはフィリップが綱渡りをした1974年8月の朝とともに、人々の記憶のなかにくっきりと残っている。——

絵の構成と何枚かの折込絵が臨場感を運ぶ。一見暴挙だが、高い空との一体感、開放感、勇壮さ、達成感を共有させてくれる。

※アメリカ貿易センターの2つのタワーを襲った2001年のアメリカ同時多発テロ、今日(9月11日)でまる8年。息子の小学校同級生も犠牲になった。彼の父母は毎年かの地に出かけ、父の作った曲を母がピアノ演奏するという。

『よじはんよじはん』ユン ソクチュン文 イ ヨンギョン  
絵 かみやにじ訳 福音館書店 2007.5

かあさんに頼まれて、となりのお店に時間を聞きに行った女の子は時間を教えてもらって帰ろうとしたけれど。小さな女の子の心をくすぐり誘うものが次から次へあらわれて……。よじはん、よじはん。忘れないように繰り返していたのに、家にたどり着いたのは日がとっぷり暮れたあと。「かあさん かあさん いま よじはんだった」と、張り切っている女の子のあどけなさ。縁側であかちゃんにお乳をあげながらそれをうけとめるかあさんの顔、その奥にいて夕飯食べている兄姉たち。ごくあたりまえの家族の風情。そんな姿に胸があっただくなる。そして聞き手は自分が道草したときを思い出す。

※韓国の絵本が今すばらしい。『ことりはことりは木でねんね』も。淡い色調で、日本の50年昔が偲ばれる。  
(沙羅)